

登録コード	L2441700	開講年度	2026	
担当教員	SPREADBURY ASH LEIGH		副担当	
授業科目	英語学発展演習VII			
英文授業名	Advanced Seminar on English Linguistics VII			
授業タイトル				
単位数	2	対象学生		講義期間 後期 曜日・時限 金曜・4時限
講義室	人文第2講義室	遠隔授業科目		読替科目 読替科目は履修案内を確認すること
信大コンピテンシー	非該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		⇔	【授業の達成目標】
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ			
	【2023年度以降カリキュラム対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】		⇔	言語学の数量的なアプローチに関する知識を深め、そういった調査を自らできるようになる
	【2023年度以降カリキュラム対象】必要な情報を的確に収集し、理解し、発信する力が身についている。【メディアリテラシー・コミュニケーションリテラシー・外国語能力】		⇔	先行研究を批判的に考察した上で整理し、オリジナルの研究を発表できるようになる
授業で学べる「テーマ」	多文化協働			
全学横断特別教育プログラム				
授業の概要	本科目では、コーパスを用いた最新の英語学研究を授業で取り上げ、言語学の数量的なアプローチに慣れたいいただく。また（受講者には可能であればノートパソコンなどを持参していただき）コーパスの使い方を説明し、実践していただく回も設ける。受講者は授業外でコーパスを用いたオリジナルの調査を進め、授業でその成果を発表し、調査をさらに発展させたものを期末レポートとして提出する。			
授業計画	第1回 オリエンテーション、補文標識likeとthatの競合① 第2回 補文標識likeとthatの競合② 第3回 コーパスの使い方① 第4回 コーパスの使い方② 第5回 better off notか not better offか① 第6回 better off notか not better offか② 第7回 多義性とテキストジャンル① 第8回 多義性とテキストジャンル② 第9回 have toか haftaか gotta① 第10回 have toか haftaか gotta② 第11回 学生による発表① 第12回 学生による発表② 第13回 学生による発表③ 第14回 学生による発表④ 第15回 学生による発表⑤、授業アンケート			
成績評価の方法	成績は以下の3項目で評価される： 1. 授業参加（ディスカッション）：30% 2. 授業内発表：30% 3. 期末レポート：40%			
成績評価の基準	「やや上にある」： 教科書の内容を正しく理解し、オリジナルの調査で一定の成果を示せている 「かなり上にある」： 教科書の内容と議論の内容を踏まえた上で、オリジナルの調査で適切な結果を示せている 「卓越している」： 教科書の内容と議論の内容を踏まえた上で、オリジナルの調査で適切かつ高度に複雑な結果を示せている			
事前事後学習の内容	事前学習として次に扱う箇所を予習する。事後学習として教科書の内容を整理し、レポートにつなげるべく関連する問題・論点を考える。授業外では発表・レポートに向けてコーパスを用いたオリジナルの調査を進める。			
履修上の注意	前提としてプログラミングや統計のスキルは特に必要としていませんし、授業でもそれほど高度な数的処理はしません。ただ、コンピュータや数値に対する過剰な苦手意識がないほうがスムーズに授業に取り組んでいただけたかと思います。			
質問、相談への対応	メール（spreadbury[アットマーク]shinshu-u.ac.jp）にて質問・相談を受け付けます。			
教科書	渋谷良方・吉川正人・横森大輔(編)(2024)『新しい認知言語学：言語の理想化からの脱却を目指して』ひつじ書房			
参考書	石川慎一郎(2021)『ベーシックコーパス言語学 第2版』ひつじ書房			